

大学発ベンチャーの成功事例～成人病の簡易診断方法を開発し新市場を開拓～

大学の研究成果から脳梗塞リスク評価ビジネスに展開

- 《受賞者》
- 株式会社アミンファーマ研究所 代表取締役社長
(千葉大学 名誉教授) 五十嵐 一衛
 - 株式会社アミンファーマ研究所 専務取締役
(千葉大学産学連携・知的財産機構 特任准教授(兼任)) 片桐 大輔
 - 蒲池孝一事務所 公認会計士 蒲池 孝一

《受賞概要》

◇脳梗塞リスクを高精度で把握

- ・従前より、病気になるリスクを評価するために使用するバイオマーカー(※1)はいくつか存在していたが、脳梗塞に特化した高精度のリスク評価を行うためのバイオマーカーは存在していなかった。
- ・アクロレイン(※2)などのバイオマーカーや、被検者の年齢を要素とする脳梗塞リスク値の算出方法を確立。**世界で初めて血液だけで自覚症状のない脳梗塞のリスクを85%の精度で把握**することが出来る技術の事業化に成功。



検査の様子

◇大学発ベンチャーによる技術の事業化

千葉大学教授時代の**五十嵐氏**による細胞障害物質アクロレインに関する**偶発の発見**(平成16年)

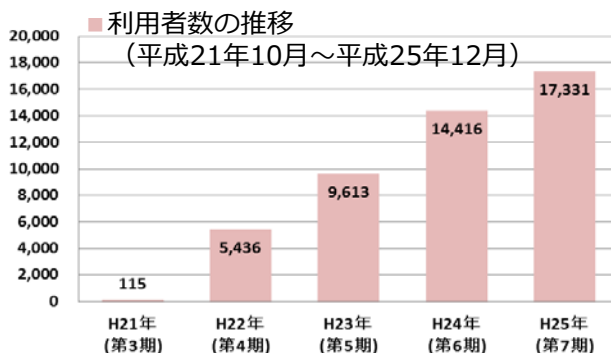
脳梗塞マーカーに向けた**実用化研究**

NEDOマッチングファンド採択課題(平成17年) 千葉大学との連携による実用化研究(平成19年)

五十嵐氏が千葉大学の研究成果を活用し、医療サービス、診断用医薬品の研究開発を行う**大学発ベンチャー(株)アミンファーマ研究所を起業**。起業にあたっては、「**NEDOフェロー事業**」(※3)により経営人材として養成された**片桐氏**が、派遣先である千葉大学産学連携・知的財産機構と共に、ビジネスモデルの構築、資金調達、連携企業との体制構築を実施。起業後、片桐氏は「**NEDOフェロー事業**」を終え、**専務取締役として本格的に参画**。加えて、**蒲池氏**が企業マネジメント職及び公認会計士として、資金調達等のプラン作り、人事体制、経営管理等を指導し、**経営体制の基礎作りに貢献**。

◇新しい市場開拓

- ・平成21年度より販売を開始し、売上累計は2億2千万円。平成24年に経常黒字化。
- ・全国約200か所の医療機関及び、複数の健康保険組合、共済組合で採用され、年間約17,000人が利用。
- ・健康保険組合からは、健康診断に脳梗塞リスク評価を導入したことで、加入者が脳梗塞を発症し倒れることを未然に防いでいる点が評価され、新たに中小企業が組合に加入するきっかけとなっている、との声。



<用語解説>

- ※1 **バイオマーカー** 血液中や身体の組織に含まれる物質で、疾病の存在等、身体の状態を知るうえでの指標となるもの。
- ※2 **アクロレイン** 毒性が強く、脳梗塞によって脳の細胞が壊れてくると増えてくる細胞障害物質。
- ※3 **NEDOフェロー事業** 研究成果を事業化する人材を育成するため、研究者が専門分野を超えて経営学等を学ぶ事業。